

科 目 名	社 会 政 策					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	永 原 丞						
開 講 年 次	3	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	資本主義経済の発展過程は歴史的に見ても新たな矛盾への対応が策定されてきました。社会政策も経済の発展に対応して変化する労働・社会問題に対し、政策機能を変化させながら対応してゆくものです。現代日本の社会政策がどのようなものであり、またどのようなものでなければならないのか、社会政策特有の「ものの見方、考え方」を十分会得していただきたい。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 資本主義経済社会は何故に社会政策を必要とするのか、その意味を理解することができる。 2) 社会政策成立の歴史的背景を学び、社会政策の本質が理解できるようになる。 3) 労働基準政策や労働時間政策の重要性を理解することができる。 4) 労使関係を学び、労働組合法のはたす役割と重要性が理解できるようになる。 5) 労働市場の二極化問題の現状について、自分の意見を述べることができる。						
学 習 方 法	講義（パワーポイント使用）						
テキスト及 び参考書等	講義中にプリントを配布						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						評価割合%
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等	○	○				20	
宿題・授業外レポート	○	○				20	
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度				○		10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーション、1. 社会政策とは何か 1-1 労働市場の概念 1-2 社会政策の本質論						
第 2 週	2. 資本主義市場経済の限界と社会政策						
第 3 週	3. 社会政策の対象領域						
第 4 週	4. 日本に於ける社会政策の展開 4-1 日本における労働関係の温存						
第 5 週	4-2 戦後の民主化と社会政策の展開						
第 6 週	5. 労使関係 5-1 労使関係と労資関係 5-2 労使は何について対立したのか						
第 7 週	6. 労働基準政策 6-1 労働者保護 6-2 近代国家が採用した法的手段						
第 8 週	6-3 社会政策としての労働基準 6-4 ILO と労働基準						
第 9 週	7. 賃金政策 7-1 日本の賃金政策 7-2 最低賃金政策の意義						
第 10 週	8. 労働時間政策 8-1 労働時間をめぐる問題 8-2 標準労働時間制度の意義						
第 11 週	9. 労使関係政策 9-1 労働組合法 9-2 労働組合						
第 12 週	9-3 団体交渉制度と労使協議制度						
第 13 週	10. 今日の労働市場政策の現状 10-1 就業形態の多様化と現状						
第 14 週	10-2 労働市場の二極化の現状と対策に向けて						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考							